愛國婦人會機關

愛國婦人

毎月十日廿五日發行

定價（一枚參錢一ヶ月分六錢三ヶ月分拾八錢半年分參拾六錢壹ヶ年分七拾貳錢全國無遞送料郵券代用（壹錢又は五厘切手）一割增

廣告料五號活字一行四拾錢

發行所　東京市麴町區下二番町三十七番地大日本女學會內　愛國婦人發行所

發行兼印刷人　山澤俊夫

編輯人　手島益雄

電話番町壹千三百三十番

◎本號附錄には評議員一戸貞子宮城支部錦戸順子德島支部平井豐子の肖像附錄を添ふ

諭旨

我愛國婦人會は日を逐うて隆盛に赴くも本會の目的に對しては前途尙ほ遼遠なり各職員諸氏は刻下の時局に鑑み一層奮勵して事業の擴張に勉めんことを望む

明治三十七年一月廿二日

愛國婦人會總裁

載仁親王妃智惠子

◎愛國婦人會員に告ぐ

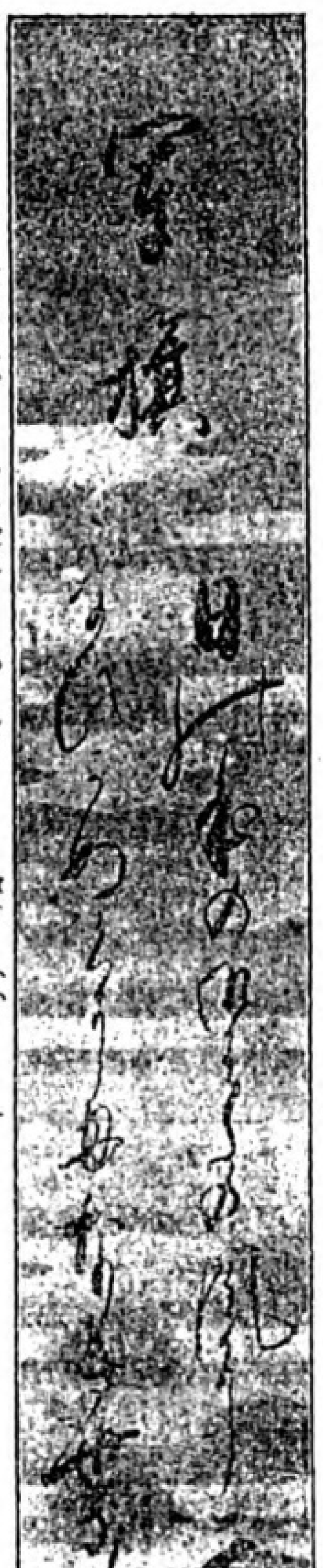
謹みて總裁殿下の御諭旨を奉體し、我が敬愛する愛國婦人會々員の淑女達に告ぐ。抑も本會が戰病死者の遺族と癈兵との救護を主張せるは、往者を回想して來者を奬勵するの旨趣に外ならざるなり。近者國際の關係平穩ならず、危機今將に迫らんとす、實に前古未曾有の事變にして、形勢の推移する所殆ど端睨すべからざるものあり。不幸にして平和破れ、干戈相交るに至らんか、陸海の戰闘、各方面に惹起せられ、死傷者の數亦甚だ多かるべきは、今より豫測するに難からざるなり。此際本會々員たらん者は、特に事業の擴張を圖りて、救護の方法を講じ、一朝戰端の開くるに方ては、遺族と癈兵との慰安に勉め、外征軍人をして後顧の患なく、一意專心君國の爲に其本分を盡さしむることを期せざるべからず。是即本會設立の旨趣にして、洵に刻下の急務なりと信ず。淑女達厚く殿下の御諭旨を奉體し、奮て令旨遂行の準備に盡力せられんこと、切望に堪へざるなり。

明治三十七年一月廿二日

愛國婦人會長公爵夫人岩倉久子

◎日本全國の姉妹方に急告す

刻下の時局に鑑み、緊急に、我國二千五百萬の姉妹方に申す。我等大和民族は何ぞ其れ多幸なる。稜威天日と倶に輝ける　天皇の御國に生れ、國光宇内に宣揚せる明治の聖代に遇ふ。此多幸なる國民にして一旦緩急あるに當らば、爭か祖先の遺風を顯彰して、忠愛義勇の丹心を發揮し、優渥なる聖恩に報い奉らでやあるべき。夫おもんみるに、國は舟の如く國民は舟子の如し。舟子努めざれば舟を行るを得ず、國民勵まざれば國を守るを得ず、況や風浪澎湃の海を航し、國難喫緊の時局に際してをや。今や將に開闢以來未曾有の事あらんとす、須らく擧國一致の力を以て、皇運を扶翼すべきを要す、即ち男子たると女子たるとを問はず、各其本分に任じて牢乎たる覺悟を定め、男子は膏血を濺きて、其衝に當るべく、女子は衝に當る者の後顧の憂を慰めて、士氣の振興に力むべきの秋なり。



理事 公爵夫人 一條悅子筆

我愛國婦人會は軍人の遺族と癈兵とを救護する旨趣にして、女子が直接邦家に對する、奉公の本分を完うせん爲に組織せる所にて、刻下の形勢に當つて大に活動を促さる。嗚呼、二千五百萬の姉妹方、冀くは奮つて我會に力を戮せ、多幸なる日本女子の本分を竭し給へかし。若夫れ、舟子の操縱鈍からんか、舟は風浪を凌ぐを得ず、國民の覺悟牢からざらんか、國は外敵に克つを得ず、豈恐れて懼さるべけんや。肅みて白す。

愛國婦人會員

公爵夫人　岩倉久子

公爵夫人　德川泰子

公爵夫人　島津田鶴子

前公爵夫人　毛利安子

侯爵夫人　大山捨松子

侯爵夫人　鍋島榮子

子爵夫人　谷玖滿子

子爵夫人　伊東美津子

男爵夫人　清浦錬子

男爵夫人　千家俊子

外有志婦人

巖上松

評議員　子爵夫人　本多延枝子

世のちりのかゝらぬ巖のいたゝきに
たち榮えたる松のゆたけさ

巖上松

大日本女學會員　東京　北岡美代子

吹風のしらへもたかし岩かねに
根さしゆるかぬ松の大木は

岡山　坂田貞子

千代のいろを水にうつして川岸の
いはほの上にたてる松哉

東京　三井五十子

千代ふへき小松のあまたおひいてぬ
大内山の岩にねさして

山口　杉静子

あらなみのよせてくたくる岩の上に
ちとせの松ぞひとりのとけき

香川　琴陵賢子

うこきなきいはほの上の松にこそ
誠の千代のいろは見えけれ

兵庫　河野きく子

たゝすまひいとおもしろき岩の上に
小松かすゝ生ひしけりけり

同　中村益子

苔青く松さへおひて山をなす
岩おもしろし川の最中に

岡山　保田しつ子

わたの原波しづかにて島山の
いはねの松にたつそなくなる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

論説

◎會員に對して希望を陳ぶ

相談役農商務大臣　男爵　清浦奎吾

左の一篇は去にし十三日評議員新年臨時總會において男爵がものせられたる演説の大意なり

謹んで皆様の御清福を祝します。扨本會も段々と皆さんの御盡力と奥村氏の御盡力とて、盛大になりましたのは、邦家のため大に喜ぶ可き事であります。平常無事の時に御盡力になつた効力は、有事の時に當り、軍人の遺族に向つて十分の働きを爲す土臺となつて顯はれます。

扨近來東洋の形勢に付ては、段々御聞き及びになつて居る通りな次第で、國際談判の詳細は規律に制せられて居りますから御話する譯にはまゐりませんが、併しながら時局が切迫して居る事は、皆さんも御承知の事でありませう。素より天皇陛下におかせられては、國際間の事は平和の進行を旨とせさせ給ふ事申迄もない、天皇陛下に直隷する政府は思召に從ひ、國と國との關係は出來得る限り平和の方針で進むべきは申迄もないよてあるが、若しも我帝國の權利と威信とが侵害せらるゝの曉には、神武以來養ひ來りし、大和民族の氣象を基礎として、國威を万國に輝す事をつとめねばなりません。平和は望む所であるが、万一にも平和が破るゝときは、實に神武以來未だ嘗てあらざる所の大事であつて、我國民は貧となく富となく男となく女となく、擧國一致て盡さねばなりません。

扨國に盡す方法に付ても、各身分に依つて相異あるものであつて、同じ男子の中にても、血を以て國に盡す者あり、即ち軍人の如きである。或は汗と齎とを以て國に盡すものもあり、即ち軍人以外の人が日夜其業務に盡し、儉約して財を貯へるのも、此の如き有事の時に當りて、御國の爲に盡さんとの決心があるからであります。又御婦人は昔と異り巴、板額の如く、自ら長刀を携へ軍に從ふと云ふ譯には參りませんから、婦人は婦人に似合しい事を以て働かねばなりません。即ち血なり汗なり齎なりを出すよりも、婦人は涙を以て國に盡さねばなりません。即ち本會は國家の爲に血を以て盡す軍人をして、後顧の憂ひなく、何處までも軍人をして干戈に從事せしむる樣、是等の人々が遺族に懸念する事なく、軍の門出も潔ぎよくして、内に心掛りのないやうにさせねばなりませぬ。是等の實を完うする爲に、溫なる心情を以て、本會は組織されて居るが、此度不幸にして此働きを採らねばならぬ事が、近き將來に於て顯はれるかも知れない。

本會の如きは、此精神を以て組織せられ、段々發達は致しますが、未だ十分とは申されません。凡そ物の發達と云ふ事は、機會を利用する事が必要である。平常無事の場合は發達がむつかしいが、其機會が到來したる時は、其機に乘じて、物の發達を謀る事が必要である。今は即ち本會の爲に好機會が到來したのであるから、此機を失せず、一層の精神と熱心とを以て事に當られ、此精神を地方にまで通じ、中央と地方と相應じて、一層の擴張を計つたならば、本會の希望を完うする事を得ると思ひます。

新聞で御覽の如く、米國の婦人が日本に同情を表して、戰爭の曉には日本の爲に看護婦の勞を取らんとまで申出たのがあります。此の如く日本は外國婦人からも同情を受け、正義の爲に同情を表し、身を犧牲に供してまでも、我國に盡さんとする外國婦人さへあります。日本婦人たる皆さんは此際一層の覺悟を以て、平常の儉約の上に一層の儉約をせられ、有事の時には幾ばくの軍資を要するやも知れぬから、社會の上流に位せらるゝ皆さんは、申迄もなく、世の手本となり、儉約を守られ、其資に供するの覺悟をなし國家の爲に血を以て酬ゆる軍人の爲には、同情の涙を以て之を迎へ以て國光を發揮せしめん事をつとめられん事の希望を、相談役たる資格に於て陳べます。

評議員子爵夫人　田中伊與子

◎時局に對して會員達に望む

相談役陸軍歩兵少佐　堀内文次郎

こは此程の評議員臨時總會に於て氏が陳べられたる演説の大意なり

◉ダイヤモンドの指輪　今日は非常なる寒氣にも拘はらず、此盛會を見るに至りましたのは只に新年を祝さんが爲の次第でもなからうと思ひます。即ち今日の時局に對し、大に感ぜらるゝ所があつて、奮て多くの方々が御出席になつた事と思ひます。時局に對する御考は、私の腹の中の考へと、皆様の腹の中の御考へと同じ事であらうと思ひますから別に陳べませぬ。就ては私は此卅七年を迎ふるに付て、今日御出席の相談役、島津公爵岡部子爵、松平子爵、清浦男爵、千家男爵、松平男爵閣下に向ては、本會の爲に尚一層の御盡力あらん事を願ひ殊に御婦人方に願ふ一大事が御座います夫は皆さんの手に輝て居るダイヤモンドの指輪夫れよりも一層大きなるダイヤモンドの指輪を輝されん事を願ひたいのである。それは如何に大いなるダイヤモンドであるかと申すに、日本國と云ふ大いなるダイヤモンドであります。此のダイヤモンドの光りを世界に輝すと否とは、皆さんの御決心次第によるのであります。

◉大和民族の女性　今日我帝國は非常なる場合に臨んで居る、故に皆さんの御決心は一方から云へば、大和民族女性の本質を世界に發揮すべき機會に遭遇して居るのである。人種から云へば、白皙人種と黄色人種との女性の優劣を決定する試驗場である。大和民族の女性は品位が高尚で、優美でさうして強いものである、白皙人種に勝るとも劣らぬものであるとの榮譽を世界に輝し、後世歷史の上に迄も傳へらるゝや否やと云ふ事は、單へに皆さんの双肩にかゝつて居つて、皆さんの御働き次第によるのである。此際に當り、御婦人は恰も、昔時上毛形名の妻が怯懦なる夫を勵まし娘子軍を率て以て敵に當り、敗を變じて勝となしたる如く、又歐洲にては有名なるジャンダーク孃が佛國革命の際軍隊に身を投じ、一万の兵を率ゐて圍の内より國王を救ひ出したる如く、夫れ以上の御元氣を出され、大和民族の女性は此如武勇にして、且つ義俠心に富み、愛國の情に厚き事は大和櫻の香と共に、長に馨しからんとを、希望します。

◉癈兵院の設備を急げ、癈兵院は文明國に於て何れも完全なる設備がある。我國には日清戰爭後多くの癈兵が出來たにも拘はらず、何等の設備もない。若しも今度大事がある時は、手のない人や足のない人は幾百人出來るやも知れず。之を收容して安全なる生活の途を得しむる處がないのは國光一點の汚辱であるから、本會は此際至急に其設備を完うされん事を望む。

◉事ある時は海外に向へ　芝區の幹事服部文子氏が、男勝りの氣象を以て、時事新報其他二三の新聞に檄文を投せられたる如く、皆さんは東都にあると地方にあるとを問はず、筆を以て或は言語を以て新聞に演説に、本會の趣旨を社會に發表する事を勸められ、尙進んでは時局開展して或る場合が生じたならば、皆さんの内で壯健の方や、家に係累の少ない方は、二人でも三人でも、手を携へて海外に出てゝ、或は軍艦に或は陣中に入つて、之を慰問し本會の事業を說かれ、吾々日本婦人は軍人に滿腔の同情を寄せ、後顧の憂なからしむる事を勸むるにより、苟も身を軍籍に置くものは奮て國家の爲に盡せよと大に奬勵の言葉を賜うたならば、之を戰地に在つて聞く處の軍人は、如何なる感想を起すでありませうか。千万の援兵が來り助けたよりも、數隻の軍艦が來り會したよりも、一層多くの効果を及す事と思ひます。

◉愛國の名稱　愛國婦人會の「愛國」の二字を、本當に顯すべき時は今日である。之を顯す責任者は即ち皆さん方である。此愛なる文字が適當に應用せられ、最も大なる働きを爲すは、前に申上げたやうな事柄に對して發せられたる愛である。此愛が將來如何なる結果を引起すかと云ふに、水づく屍、草むす屍となりて、皆さま方に酬ゆるてありませう。

巖上の松　評議員　有島幸子

ゆるぐへき岩ほならねは老松も猶幾年の春にあふらむ

露國とたゝかひおこらんなど人のかたらふを聞て

あた波は立さわぐとも日の本のやまと島ねはうごくべきやは

あらわしの羽根打ふりてむかふとも大和武士なにおそるへき

巖上松　評議員　中山幸子

神代よりうごかぬいはに相生のまつに小松のおひしけりつゝ

狩野

あらはしのつはさ落してもの〻ふのゑみをふくみて歸る日をまつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎袈裟

評議員　下田歌子　新作

袈裟は、衣川の娘にして、源渡の妻なり、袈裟は、姿貌麗はしく心ばせ優にやさしかりければ、或人の爲めに勸められ、上西門院の雜仕となりて事へぬ。然るに、切に媒するものありて、未だ笄しするに及ばぬほどに、源渡に嫁せり。或日、從兄の遠藤武者盛遠、途に之を垣間見て、深く念ひを懸け、其迹を跟けて、袈裟の入る家を認めたるに、始めて渡の妻にして、我從妹女なることを知り、一度は、失望の淵に思ひ沈みて歎き居たりしが、竟に、心猿の狂ふを制するに由なく、意馬の走するに任せて、叔母の衣川の家に至り、百方說いて、從妹女に遇はむことを迫りしかど、衣川はふくか其非を悟して、初めのほどは、從はざりき。されども、盛遠、殆ど狂するばかりの有樣にて、脅しつ賺しつ迫りければ、衣川、遂に辭するに由なくして、我娘を呼び寄せ、盛遠に對面せしめぬ。盛遠は、袈裟に遇いて迫るに、白刄を以てし、意に從はざれば、母を殺して自殺せんと脅しぬ。袈裟は終に逃がるゝに途なく、僞りて盛遠をすかして言ひけるやう、「御身左程に我を慕ひたまはゞ、我も亦御身に誠を盡さんとす。然れども、我には現に良人あるを如何にせん。君若し、我を思ふこと、生命を以てすと云ふをして眞ならしめば、今夜、窃に來りて、我夫を殺せ、夫いまさずば、我又枕を高うして御身の妻となることを得ん。さて、寢所の中は燈を消して、御身が忍ぶに便よからしめむ。我はまた。夫を勸めて、髮を洗はしめ、酒を薦めて醉ひ臥さしむべければ、髮の濡れたるを心的に、探りより、渡なることを知りて、之を刺せと言ひければ、盛遠、其欺かるゝを覺らず、大に喜びて、夜の更くるを約して歸りぬ。袈裟、家に歸りて、先づ、夫に勸むるに酒を以てし、其醉ひて、自から覺らざるを認め、窃に舁きて、我臥戶の內に眠らしめ、自らは、急ぎ髮を洗ひ、男子の髮の如くに短く切り斷ち、其切り取りたる毛髮の末を包みて、辭世の歌を記し、懇ろに母の許に書き置きを爲し、自ら、夫の臥戶に代りて寢たりけり。盛遠は、約の如く、深更に忍び入り、髮の濡れたるを探り當てゝ渡なりと思ひ、只一刺に袈裟を突き殺し、首かき斬りて闇に紛れて走り出でぬ。夜明けて後、約を蹈み、其首を袈裟に示して、婚姻を迫らむとしてけるに、ほの〴〵明くる空の光に賺し見れば、思ひも懸けぬ、袈裟の首なりければ、驚くこと大方ならず、やがて走りて、叔母の家に至りけるに、此處には、既に袈裟の遺書のおくりあるを見、さては從妹女は母の死を救ひて又自分夫の生命に代り、斯くも節義に死してけるよと思ふに、始めて、迷ひの夢も覺め、身も痺れ、心も消ゆるばかりにて、我過ちを千度八千度悔ひ歎けども、今ははや詮方なかりければ、泣〳〵渡の家に至り、自ら其刄に死なむことを請ひけれども、渡も今更に盛遠を殺したりとて、死したる人の歸るにも非らずとて、敢て肯ざりければ、盛遠は、遂に髮を下して僧となり、袈裟の後世を弔ひけるにぞ、渡も亦遂に出家してけりと傳ふ。いと痛ましき物語にこそ。

袈裟の死は、誠に痛むべきかな。齡まだ二十歲に足らずして、端なくも、狂暴なる從兄の爲めに迫まられ、之に從はざれば、母の生命を絕ち、從兄も亦生命終るべし。之に從へば、不貞の女子となるを如何にせむ。事は迫りぬ、深く之を考ふるの時日を餘さず、突嗟に思案する處、只一に母と夫との生命に代はらむとするあるのみ。因ッて、夫を醉眠せしめ。自ら夫に代りて從兄の刄に伏しぬ。世人、動もすれば、其死を急ぐの愚を哂ふものありと雖も、亦甚だ酷ならずや。若年の少婦、此危機に臨んで、斯くの如き處斷に出づ。感ずべくして咎むべからず。現今、人情日に薄きを加へ、又斯くの如き節に死するの女子あるを聞かず。冀くは、古人の迹を見て、深く世の趨勢に鑑むる處あらむことを。

侯爵世嗣夫人　伊達孝子

童話　鏡

巖谷小波閱　高階柳蔭譯

町子と云ふ少女がありまして、至ッて物事に腹立ちッぽい性質でした。て、お母さんは何かそれをなほしたいとお思ひなすッて、平生から、『憤怒と云ふことは極めて醜く惡く害のあるものであるから、人殊に女は溫和にしなければなりません。』と敎訓て居らッしやいました。ある時町子はお母樣と御一緒に縫臺にむかつて裁縫をしてをりましたが、そこへ弟の太郎と云ふわんぱく者が入ッて來まして、鞠を投げたりして室の內を走りまはッてゐましたが、不圖町子の臺の上にあッた、花瓶を床に落しました。花瓶は毀れ花は四邊に散亂すると云ふ始末で、町子は驚きましたが、例の憤怒はむら〳〵と起ッて來て、『アラッ、太郎さん、何うしたのねェ、姉さんの大切な花を顚倒してさ。』と太郎を叱りつけました。その時の町子の顏は平生とは大違で眼は鋭く光り額には癇癪の青筋をたててをりました。お母さんは町子の有樣を見まして、傍にあッた鏡を取ッて、町子の顏に差しつけまして、『町子、お前のその顏を見て御覽なさい。』と申しましたので、町子は不圖見ますと、その體ですから自分ながら、恐ろしい嫌な面なのに呆れて、ジッと見てをりましたが、その中に憤怒の面色は消えて、さめ〴〵と泣きだしました。お母樣は、『町子やお前よく御覽だッたらう。平生から云ふとほり怒ッた顏は如何樣に嫌なものでせう。始終怒ッてばかりゐると、そんな顏になッて了ッて、溫和いところは毫しもなくなッて了ひます。ですから決して無暗に怒ッてはいけません。』と仰いました。町子はこれに懲りて、それからは憤怒ることを謹みましたから、大そう優しい可愛らしい少女になりました。

敎訓　容貌はその人の精神の姿です。精神が惡ければ容貌も從ッて險惡獰猛になりますし、精神が善良であッたなら從ッて溫和な可愛らしい容貌になります。

家庭遊戲　墨つけに代る新方法

巖谷小波閱　高階柳蔭譯

第十二、遣物分け。これは罰にあたッた人は遊戲者の一人の膝に突伏してゐるか、又は手巾で眼を縛ッてゐるのです。すると他の者はいろ〳〵の身振をして、

『あなたはこれを誰にあげるのです』

と尋ねるので、問はれた人は、そこにゐる人の名を云ふのです。例之は、問ふ人が、唇を動かして接吻の眞似をするとか、又は手を伸して抱く眞似をするとか、又は滑稽て鼻を摘むとかするのです。それが濟むと縛ッてある眼をほどいて、その通りをその人にするのです。中には身振の出來ないものもあッたりしますから、その時にはそれを隣の人の耳に小聲で云つて置いて、あとでそれを云ひ聞かせるのです。例之は、『あなたは、これを誰にあげるのです。』と云つて置いて、隣の人に小聲で、『私の負債をとか、愛情をとか、智慧をとか滑稽けたことを云ふのです。

第十三、懺悔。これは罰にあたッた人は眼を縛るか、又は他の者の膝に突伏してゐるのです。尋ねる人は、懺悔を聞く大僧正のやうな假色をして、いろ〳〵滑稽た身振をするのです。例へば、物を盜むやうな眞似をして、『あなたはこれを何遍しました。』とたづねるのです。尋ねられた人は、何をしてゐるか知らないから、『まだ仕ません、とか又は千遍しました』とか云ふのです。又は抱く眞似をするとか、拜む眞似をするとかして、『あなたはこれを何遍しましたか』と問ふのです。さうすると、『ハイ、毎日いたしてをります』と答へたならば、縛ッた眼をといて、それを云ふのです。

第十四、戶の陰での問答。之は罰にあたッた人を戶の陰におき、他の者は室內に寄ッて、何いふ問を出たら宜しからうと相談をするのです。その問は三題位であッて、それか極ると、一問づゝ一人が戶のところへ行ッて、『さうですか、さうぢやないのですか』と本當の問を云はずにたづねるのです。たづねられた人は、その問は何のことであるか、分らないけれどたゞ、『然り、とか又は否』とか極單簡な答をするのです。例へば、『あなたは許嫁をなさいましたか』と云ふ問が第一問であるなれば、一人が戶のところへ行ッて、『さうですか』と云ふのです。そこで尋ねられた人は『ハイ』『何べん』『十遍！』又第二問に、『あなたは法律の罰をうけたことが御座いますか』『否』

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家政

◎家政要領

人事

●分娩　妊娠四十週日にして胎兒全く發育を遂げ胎盤自ら脱離して產下せらるゝこと恰も熟したる果實の自ら枝を離れて落つるが如しされば胎兒十分に成熟すれば安かに分娩するは生理上自然の作用なりさて分娩の時期は三月最も多く五月最も少なし西洋の統計に據れば分娩は夜間に多く日中に少なく就中最も多きは午後十二時より午前二時までの間に在り。

凡そ生理的分娩の作用は先づ子宮の收縮を生じ其が爲に十五分間ばかり輕く小腹に痛みを覺え其後十分間許は止みて又再び反覆す（俗にシヤリと云ひ醫家の所謂陣痛是れなり）斯く痛み方の整然としたるもの之を正產の狀態とす是れより次第に休止の間短くなりて痛みの時間長く續き且つ增劇し肛門には便通の感を生ず次に破漿して羊液を出だし娩產の容易なるものは輙ち是と共に娩產す其後子宮は一時休息し暫時にして再び收縮し痛みを起して胎盤を出し即ち後產なりさて羊液と稱するは產道を滑かにし以て出產に便ならしむべき爲の純粹なる水なり若しも是れが純粹の水ならで赤色のもの混じたるか又は娩產に先ちて血液の漏るゝが如きは前置胎盤など稱ふる類のものにして破格の出產なり此時は必ず產科醫の診斷を受けざるべからず

◎各地特種の料理

（七三）薩摩薯の摘入　薩摩國　鈺子

我が地方は甘薯の本場ですから、此薯を種々に料理しますが、其中で、薯を吸物にする田舍料理が御座いますから、皆樣の御笑草までに御報知いたします。其仕方は甘薯をゆでまして皮を去りてだき、其中へ甘薯から取りました澱粉を混ぜて能く〳〵こなしまして、それを小さくまるめ、御汁なり又は砂糖のおしたじに入れて煮ます。是れは頗る簡便で、費用のかゝらぬ田舍の御吸物で御座います。

（七四）鯛の麹漬　備後國　某　報知

白き麹に醬油したく〳〵にかけ置き、鯛を二枚におろしよき程にきりて漬け置くなり。こは他所へ進物になすに漬燒も珍らしからねばといふ時になせども鯛のつかへしをり漬け置きて用ふるもまた珍らしくてよし。あとの麹幾度もつかはるゝ故勝手も能く、味も味噌漬よりはよきやうなり。

（七五）鯛の漬やき　尾道　花葉女

鯛の鰓の所からはらのものを去りまして（はらはあけません）其あとへ切り昆布をつめます。竹を五分位の幅にわりましたのを一本づゝあぎの兩側から口へ出して紮ります。此二本の竹串で身をはさんで尾と一緒に紮りて置きます。さうして頭と尾とを籜でつゝみて鹽漬てやくのです。

（七六）じぶ　金澤市　會員　報知

先づ鍋に味淋を入れ、火にかけ、二三度程つけ木に火をつけ、鍋にかざして酒しほをとり、少し冷して醬油をさし、火にかけ、煮立ちたる處へ、鴨のあぶら皮を少さく切りたるを、饂飩粉を皿に盛りたる中に入れ、裏表とも、饂飩粉をまぶしては鍋に入れ煮上るなり。然る後、鴨のよき身の處を切りたるを、是も饂飩粉にまぶして鍋に入れ、色の變りたるを見はからひ、裏がへして煮あげ、皿にとり上げおく、別に牛蒡をまるのまゝゆでゝ、二日ほど水につけてあくを拔き置き、之を擂よく擂木にてたゝき、（あまりつぶれぬ位に）一寸二分位に切りたると、小蕪をゆでゝ皮をむきたるとを、前の鴨の煮汁を少しのばしたるに入れて煮あげ、又別に山葵のおろしたるに、少し酒をたらして庖丁にてたゝきおく、さて椀に蕪三つと、牛蒡二本程入れ、其わきに鴨の身五切と脂皮二つ三つを載せ、山葵をも一寸入れ、煮汁をほんの少々したゝるほどさして食するなり。右は鴨のじぶの仕方なるが、鴨にかぎらず、他の鳥肉にても同樣にこしらへて味ひよし。

◎總菜日記（寄稿を募る）

日本女子大學寄宿舍

卅六年八月中一週間の獻立（學級による）

	朝	晝	夜
日曜	滋養スープ、パン、バタ、ジヤム	ポテトー、肴ソース、パン、バタ、ジヤム	ライススープ、肉ニ林檎ソース、枝豆、大根、蓮根サラド、南瓜パイ
月曜	粟、玉蜀黍、牛乳、砂糖、パン、ジヤム	ライスカレー、ラツキヨ、白スボシ、果物	牛肉スープ、豚ニベルネース、ソース、新サツマイモ、コーンスタルチプデング
火曜	小豆、米、牛乳、砂糖、パン、バタ、ジヤム	鹽鮭ボール、パン、バタ、ジヤム	牛肉スープ蒲鉾、肴、マイナイソース、鳥ノ林檎結、ボイルポテトー、胡瓜トマトーサラド。挽茶、小豆、白玉アイスクリム
水曜	鳥肉、飯、野菜ソース煮、パン、バタ、ジヤム	ポテトー、肉、卵巻、パン、バタ、ジヤム、果物	野菜スープ、サウセージロール、葱ノスチユ、アプルフリター
木曜	ジヤマントースト、蜂蜜、紅茶、牛乳	罐詰牛肉、ボイルポテトー、パン、バタ、ジヤム	ミイルクスープ、ミイトサンダース、トウモロコシ、大根蓮根サラド、ブレッドプデング
金曜	粥、カキモチ、牛乳、砂糖	肉ノパンケーク、パン、バタ、ジヤム	鰹節スープ、ビーフテーキ、枝豆、胡瓜サラド、桃カスタープデング
土曜	ミルクトースト、砂糖汁	米、肉、馬鈴薯ソース煮、果物	南瓜スープ、鳥肉コロツケ、葱ノフライ、胡瓜サラド、道明プランク

◎家計收支の實況（寄稿を募る）

尾張國　鵜崎　某

私の友たちが貴會の會員の一人でありまして毎月御發行になる愛國婦人を度々拜見致します中に家計收支の實例として全國各地よりの投稿が掲載せられ吾々の參考となる事が多くあります私も甚だ家計には未熟でありますが御參考として投稿します尤も左は卅六年度の支拂の實況であります

一家族　八人　自分、弟（中學在學）妹（幼稚園）女中二人　下男二人及義妹（高等女學校在學）

一金九百八拾五圓貳拾八錢五厘　一ケ年支出高
金百六拾五圓四拾四錢　一ケ月支出割高

科目	年額	一ケ月割	科目	年額	一ケ月割
教育費	二三七、六〇〇	一九、八〇〇	日用品費	一五〇、八一一	一二、五六七
器具費	六九、九〇〇	五、八二五	賄費	四一三、六七六	三四、四七三
被服費	一六二、四〇八	一三、四五〇	雜費	六三、九七二	五、三三一
居住費	一六一、四〇八	一三、四五〇	臨時費	四四七、九四四	三七、三二九
雇人費	九七、六七八	八、一四〇	醫藥費	六六、七七〇	五、五六四

但シ所得稅、町稅、及是等に係る地方稅は除く

評　此表は支拂のみにて收入額無知なき爲比較對照して批評を試みる餘地なきをうらみとす。科目が適當にされたるは甚だよし、但し、臨時費の額は甚だ多きに過ぐるが如し、

◎家計の帳簿（つゞき）

第三、月々計算表　月々計算表は、一ケ月中の諸出入を各科目毎に總計して、彼此對照の用に供するものなり。此表は主婦たる人、各月の終りに於て、日用帳の調査を終へたる後、必ず之に轉載整頓せんことを要す。而して之を家長の覽に供し、一ケ月間に於ける、金錢出納の實況を報告して、家長か其の所得の使用を、全然委托したる信用に對し、責任を明にせざる可からず、且つ之を以て、翌月の豫算を協議する資に供せば其の利益一層大なるべし。

第四、年計表　年計表は、各月の諸收入を比較對照して年中の出納を一覽する便に供するものなり此表は、一ケ年内に於ける各費目の過不及、及び收支の權衡如何を比較對照し、以て一家經濟の實況を明かにし、兼て將來の參考に供するものとす。

室內遊戲

新年少女遊技法

巖谷小波閱　高階柳陰譯

（三）歌留多の占斷

二組の歌留多を持つて來て、一組は遊戲者の中に分ち、一組はよくまぜて卓の上に伏せておくのです。それから一人は、いろ〳〵滑稽なる豫言をするのです。例之ば、今度の試驗で一番になる人。この中で一番早くお嫁に行く方。誰が一番怜悧であるか。大けな富籤にあたる人。一番愛嬌のある方。などゝ云つて、さて卓子の上の歌留多を一枚とつて、それと同じ印のある札を持つてゐる人が、その豫言をうける人になるのです。

（四）何故こんなでせう？

遊戲者の一人は隣の人にむかつて、「私は……になりたいのですが。何故ですかあなたは御存じですか」といろ〳〵な物を云つて尋ねると、隣の人は早くそれに答へるのです。例ば、問「私は鳥になりたいのですが、何故ですか、御存じですか」答「あなたは何時もお好な方を窓から見たいと思ふからです」又は、問「私は菫花になりたいのですが、何故ですか御存じですか」答「あなたは牧羊者から摘んでほしいのです。

（五）傳記遊び

これは各自一枚の紙に、歷史上又は現代にても著名なる人の名を記し、それを折つて見へないやうにして、他の人のと交換して、それに其人物の生れた年月日と場處とを記し、又折つてそれを他のと交換し、今度はその次に、或る事蹟を記して、度々交換してはいろ〳〵なことを書き、一つの傳記をつくるのです。すんでから、みんなそれを集めて、一々朗讀するのです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

●故近衛公爵を偲ぶ

相談役步兵少佐堀内文次郎

本篇は記者に對して氏がものせられたる談話の要領なり。文字の責は記者にあり。

○本會を賛助されし第一は公爵なり　北風の吹きすさぶ今日此頃は、人も我も種々なる感慨が胸に浮ぶとであるが其中でも、本會の將來を思ふ毎に、先づ吾輩の胸をさすのは近衛公の薨去である。公爵と本會との關係は恰も家の柱と同時に礎であつて、本會の爲には實に重鎭を爲して居る所であッた。想ひ回せば卅四年の春正月の十一日頃の事であッた、奥村刀自は公爵に訴うる所があッて、之に賛助する爲に公爵邸に會したのは、公爵閣下を始め同公爵夫人、二條公爵、下田歌子、山脇房子、及び吾輩等の數人であッた。其時公爵の熱心なる賛助は、恰も我家の遺族の世話てもするかの如き、深切と熱心とを以て賛助せられて、此會の一日も速に成立せん事を祈られた。その結果一月の廿五六日頃には、今日此盛大なる會の卵は、始めて公爵の膝の上に孵化されたのである。

○新日本を形作らんとす　本會の設立については、公爵は人の最も困難とする經濟上の事や、會の規則を編む事やら、大となく小となく、多忙なる御身をも顧みず、日夜心血を注がれたのである。今日本會が此盛大を見るに至りし其根柢は、公爵の熱心なる賛助に根ざしたるに外ならぬ。公爵の此會に屬せられたる希望は廣大無量にして、本會の目的の内にあらゆる希望を含で居られたのである。即ち此會を以て新日本を形作り大和民族の精神的開發を企てられ、風俗の改良品位の高尚等、社會上總ての改良進步を此會の精神によッて發揚せしめんとの考を持て居られた事は、自分の深く信ずる所である。

○愛國の命名をなす　又今日の如き時世に早晩向ひ來ると云ふ事も、卅四年の春此會が卵の中より生れ出てたる時既に懐いて居られた希望の一てある、故に其際此會の命名式を協議した時にも、種々な名前の考按の中より撰んで「愛國」の二字を以て冠せられる事になッた。愛國の文字は人々の考へ次第によッて、種々なる手段・方法・希望をも含む字であるが、公爵の意思は此文字の中に如何なる意味が包含されて居るかは、公爵を知らるゝ皆さんの御意見に任すが、其内の理想の一を想像して云ひ顯はせは、今日の時世に於て、否な今日以後我帝國陸海軍人が遭遇する總ての場合に於てあらゆる賛助を與へられ、帝國婦人の面目を發揮せしめらるゝ事を期して居られた事は、間違ひのない一の想像であると信ずる。

○靈魂本會を護らん　要するに公爵か、今日の時世に於て、薨去されたのは、本會の爲に甚だ悲歎な次第であるが、併し本會の會員諸君が公爵の遺志を繼がれ、愛國の精神を以て進み往かれたならば、公爵の靈魂は永く此會の爲に付き纒い此會を守られ、此會を發展せしむる事をせらるゝてあらふ。自分共は公爵の薨去を悲しむと同時に、公爵の遺志をつぎ、益々愛國の精神を發揚せしめ、以て公爵の靈魂を慰めん事を期せんと思ふのである。

愛國婦人會記事

○評議員會　本年より評議員會は、一ヶ月一回第二水曜日のみ開く事に、先般決議せられたるが、時局問題に對し種々協議す可き事柄增加したるにつき、當分の内第四水曜日をも會日となし、開會する事になれり依ッて來る廿七日（一月分第四水曜日）も開會す。

○評議員新年總會の景況　去にし十三日午後一時より、豫定の通り九段階行社に於て、評議員新年總會を開き、追加豫算として協約狀調製費、紅組調製費、及事務員賞與の件等に對し、協議を爲し相談役、淸浦男爵、及堀内文次郎氏の演說あり、（別項所載）庭前にて一同寫眞を撮り、終て會長理事より贈與せられたる酒饌をうけ、午後五時頃退出せり。當日出席せし人々は、會長始め、理事には毛利安子、鍋島榮子、谷くま子、評議員には岡部坻子、淸浦錬子、山地謙子、伊東美津子、松平八百子、松平須磨子、相馬陸子、鄭濱子、柳谷千代子、伊集院繁子、嶋山春子、濱尾作子、山脇房子、有島幸子、中山幸子、豐島文子、岩佐德子、仁杉歌子、棚橋絢子、三輪田眞佐子、佐藤猶子、松浦島子、内山訓子、澁谷知和子、幹事には笠井梅野子、宇津木ひろ子、堀内えん子、田村彭子、等六十餘人にして、外に相談役島津公爵、岡部子爵、松平子爵、淸浦男爵、千家男爵、松平男爵、堀内步兵少佐等にして、非常に盛會なりし。

○相談役近衛公爵薨去　本會相談役公爵近衛篤麿氏は、昨春來病氣の處、去にし二日午前八時頃落合村の自邸にて薨去せられたり。依て本會より幣帛料を送り、松平子爵夫人會長代理として同邸に見舞はれ、葬儀當日は評議員淸浦錬子、伊東美津子、佐藤靜子、阪井春子、鄭濱子、高木錬子、柳谷千代子、伊集院繁子、等は會葬せられたり。

○會員の特別寄附　大阪の特別會員奥田梅尾子氏より、左の書面を添へ金百圓寄附せられたり。

會員寄附御願

一金壹百圓也

右は拙者儀、兼て本會の主義を協贊し、特別會員に加入罷在候處、時下東洋問題も時局大いに切迫し來り候樣子に承り及び候に付、本會に於ても、諸般の御準備等御出費益多大ならんと存じて、一層本會の主義に感じ、自分に於ても一個老女に候得共乍微力、國民の義務として、前記の金額御寄附致度候間、御聞屆被下度、此段奉願上候也。

明治三十七年一月十三日

大阪市西區京町堀通五丁目百二十六番
士族　筆墨文具商
特別會員　奥田梅尾

○理事一條公爵夫人　一條公爵は、佛國公使館付武官に任ぜられたるにつき、本會の理事たる公爵夫人一條悦子氏も同行せられ、此程赴任の途につかる、依て本會を代表して評議員淸浦錬子、高木錬子、伊東美津子、山脇房子、の四氏は新橋まて見送られたり。

○小笠原相談役　軍艦千代田に乘込み航海中なりし、海軍少佐子爵小笠原長生氏は、此程歸京軍令部付きになられたる趣きなり。

○熊本支部　同支部にては、一月七日午後一時より縣會議事堂に於て、初會を開く、當日は江木支部幹事長以下無慮五百餘名、出席の上、江木夫人の挨拶にて式を始め、規則改正三十六年度の會計事務報告及、會員の現在數等を報告し、江木知事の演說あり、佐藤軍醫部長以下の講話、西の某の北淸事變の講談あり、一同撮影の後ち、茶菓の饗應あり最後に福引の餘興あり、此間絕へず樂隊は奏樂をなし、最も盛會なりし、因に當日は各郡部より十數里を遠しとせず、會員及有志の出席あり、始め階行社にて催す筈の處、出席者多數にて、同社二階墮落の恐れあるにより、俄かに縣會議事堂に席を移したる程の盛會なりしよし。

○篤志なる會員　石川縣能美郡國造村鍋谷區谷田八三郎の母しよんは、本年七十六歲の高齡なるか、六歲の時父母に別れ、他人の手に養育せられ、九歲の時より子守雇に出て、廿三歲まて雇留を爲し、夫を迎ひて同區に世帶を持ち、夫婦共稼を爲し、今は相應に資産を造り、家宅も新築する程の身となり、當主八三郎も公共の心に富み、既に赤十字社員となり、母しよんは性來慈善の心にも篤く、幼少の時より心懸善く、此程能美郡長沼崎氏、全村に出張し、鍋谷區の某家に宿し、其夜區内の婦女を集め、愛國婦人會の講話を爲せしか、其主旨に感し、曾て九歲の時子守雇に出しより以來、或は年玉、或は使ひ賃なりとて、他人より惠與せられたるものを貯蓄し置きたるものなりとて、昔の小錢を入れたる古箱を持參し、愛國婦人會に納め度と申出しより、之を計算し見るに五圓六拾錢ありけれは、沼崎氏も其篤志に感じ降雪を侵ししよんの宅を訪ひ事の次第を尋ねしに、自分は讓て幼少の時より勞働して得たる金を以て、衣食住の料に充て、勞せすして人より惠與せられたるものは、身に私しすへきものにあらすと思ひ、六十七年の間、蓄積したるものなり。今日迄は自身の孫子にも此金の所在を語らさりしか、愛國婦人會の主旨を聽き、初めて國家の御恩を知らすに暮せしは申譯なき次第なから、責めて其萬分の一にも報ひたしとて、更に一圓四拾錢を加へ即時七圓納めて終身會員となれり。

◎愛國婦人會會員現在數表

三十六年十二月末日調

支部名	特別會員	通常會員	計	贊助會員
北海道	二八七	八二八	一、一一五	四五五
東京	一、七五一	二、〇五六	三、八〇七	一七六
大坂	六三八	二、〇〇九	二、六四七	一九六
京都	三四三	一、六三一	一、九七四	四七
神奈川	六六六	二、六一六	三、二八二	一八〇
兵庫	三四八	二、〇〇二	二、三五〇	一四〇
長崎	一〇二	二四五	三四七	一五
新潟	三四〇	一、四一九	一、七五九	六五三
埼玉	一六二	一、三〇五	一、四六七	一一
群馬	四七	二〇五	二五二	一
千葉	七二	一二九	二〇一	〇
茨城	五〇	七九	一二九	三〇
栃木	六九	四〇九	四七八	七〇
奈良	一二五	五八八	七一三	〇
三重	二五	四〇七	四三二	六七
愛知	二二四	二、〇六八	二、二九二	二七五
靜岡	四六	五六七	六一三	四六
山梨	六二	二九九	三六一	〇
滋賀	五五	二五五	三一〇	八九〇
岐阜	五七	二一四	二七一	一二〇
長野	九一	六七七	七六八	二六五
宮城	一四二	五四七	六八九	五五
福島	五〇	一八二	二三二	二三五
岩手	一五八	四三八	五九六	二三六
青森	三三	九二	一二五	五五
山形	二五	二〇七	二三二	五
秋田	五九	一九五	二五四	一六
福井	三五	一〇	四五	〇
石川	五六九	三、一〇六	三、六七五	二七一
富山	一四〇	一、二五九	一、三九九	一〇二
鳥取	八二	五五八	六四〇	三五〇
島根	八八	二〇八	二九六	九〇
岡山	一四四	九七九	一、一二三	〇
廣島	三六七	九九六	一、三六三	九〇
山口	九二	四四二	五三四	〇
和歌山	五〇	五八八	六三八	二〇七
德島	二五	一九五	二二〇	四
香川	一七四	一、〇七九	一、二五三	六六
愛媛	五四	四五八	五一二	一五
高知	二〇	二九五	三一五	二一
福岡	五二八	九九九	一、五二七	八七八
大分	六一	一九四	二五五	四
佐賀	四九	二二四	二七三	五九
熊本	四六七	一、三八五	一、八五二	八九二
宮崎	二一	二四一	二六二	五
鹿兒島	一八六	五七〇	七五六	五
沖縄	〇	〇	〇	〇
臺灣	一	〇	一	〇
海外	一九	七	二六	〇
合計	八、七〇四	五四、一七三	六二、八七七	七、〇三三

備考　東京栃木佐賀の支部は報告未着につき五月末日調長崎新潟埼玉奈良福井岡山は同く八月調茨城山梨鳥取廣島愛媛は十月調を揭ぐ十一月末日調の人員より特別二百九十一名通常五百十二名增加せり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世論一斑

●軍人遺族の扶助料　日露の間に於ては、いよ〳〵戰爭をせねはならぬ勢ひとなりましたが、いよ〳〵戰爭となりますれば、我か海陸軍の將卒は進んで護國の犧牲とならなければなりません。私共は忠勇な軍人に向つて、偏に感謝を表しますと同時に、當局のものに希望するは、軍人恩給法の改正の事であります。今日の規定によりますと、戰死し、又は負傷のために死んだもの丶遺族は、兵卒は卅六圓より五十七圓まで、下士は六十圓より百五十圓まで、少尉は百八十圓に過ぎませぬ。今其額を俸給に比較すると、僅に其三分の一内外に過ぎませぬ。之を以て生計を維持し孤兒を敎育し、先人の體面を維持するは、實際困難である、少中尉の遺族にて、一ケ月十五圓内外の收入にては、其日の糊口も覺束なし、況んや下士卒に至りては、其遺族の窮狀想ひ見るに餘ある次第である。斯の如きは、一身を抛つて、國の爲に名譽の戰死を遂げたる軍人を遇するの道でない。生命を全うして、多くの賞與を頂戴したものに引替へ、憫むべき寡婦孤兒が悲境に沈むを見るに至りては、同胞の情として忍ぶ可らざる次第であつて、國の大事に當りて、士氣を鼓舞する所以の道でない。軍人をして後顧の憂なく、死力を盡して奮戰せしむるには、死後の待遇について十二分の方法を備へればならぬ。此時此際に於て、扶助料の改正の如き、最も時機の宜しきを得たるものであるから、速に之か實行を望む云々　（一月四日時事新報社說）

●愛國婦人會員の檄を讀む　服部文子氏の投書について、本會の性質及其成立を陳へ、且つ曰く古し孔子は、終を愼み、遠を追へは、民の德厚きに歸すと申して居りますが、此句を以て、軍人の遺族に對する德行を、國民に勸むる訓言とする事が出來ます、今日日英同盟が出來まして、我國民が種々なる利益を得まするに至りました其原因は、我國の軍人が勇にして、死を以て國に盡した結果に外なりませぬ。現今の國民は、生きて其利益を有事の際に受け居りますから、之と同時に死者の遺勳として、之を解釋しますのは德義の回想であります。遺存の軍人は光榮を得ましたが、北清に骨を埋たる英雄の遺族が、窮乏の生活を致しますのは甚だ悲痛の事柄で多くは志願の士官よりも兵卒及其遺族であります。之は地位か低うして、名も知れれば、遺族の待遇も薄うあります、之は國民か須く追念すへき事柄でありまして、救護の任に當るは國民の德行として缺く可からざる次第であります。愛國婦人會員の檄を讀みて地下無名の英雄に追謝するの感に堪へません。　（一月十日每日新聞社說）

●音樂と樂器　今日最も素人の學ぶことを好む樂器は、ピヤノである。これは或點から云ふと音樂を代表することか出來る力を持つて居り、又誰れか學んでも一と通りの音を出すものであるから、自然學び易い。併し其缺點として音が早く消えて仕舞ふとか、嵩か大きいとか、價か高いと云ふ缺點はあるが、他の澤山の長所かあるから之を補うて餘りある、次はバイオリンである。これは携帶に便利で、音色に變化があるので、最も歡迎されて居る、併し其缺點としては、學ぶとが困難である。才に最も廣く行はれて居るは、オルガンであるが、之は音樂としては、複雜なる技術と、精巧なる樂器とを要するものである。パイプオルガンなどは、日本に未だない程である。實に簡易にして、高尙なる音樂を普及せしめんとするには、以上二つの樂器と、箏の音樂と云ふものが適當である。これは歌を唱うと云ふ事である。唱歌の組合の如きものを設けて、大勢のものか一緒になツて歌を唱ふといふやうなことは、互に樂しみを交換し、精神上の一致といふやうなものを輔けて、非常に効があると思ふ。（大島東京音樂學校長所論東京日々新聞）

●箏曲の秘訣　音樂を仕込なら、五歲六歲位から初めて就かなければならないと思ます。箏と云ふものは、今までの人の考へては、大抵これを彈くに屈んで彈かせるから、體育に大障礙ると云ふ事てございますが、それは大間違ひて、箏といふものは身を反せなければ彈けないものであります、最初に躰を極めて擇へをすつかり直して、下腹に力を入れてからでなくては、本當のことは出來ない、故に、子供が習ッても身体に害にはならない。次に、西洋樂と日本樂と比較するに、西洋樂は音域の廣いのと拍子の變化の多いのが主たる點である。日本樂は之に反して、優美とか、靜かに聽かせるとか云ふ點に於て、確かに西洋の音樂に負けない。又日本の樂器の特色は、其曲に掛かツて調子を自由自在に動かすことが出來るので、之は西洋にない特色である。故に割合に音域か廣く、使へます。又音樂を奏する時の心懸けは、神に對いて信心する時の心持て、無念無想、其曲たけの事しか考へずに彈かればなりませぬ。第一に精神か肝腎てあツて、一本の絲を彈くにも十分に精神を入れて彈くと、其音か大きく出る、精神か拔けると直に末の方か盜ッて居る、氣合と云ふものが緊要であります。（東京音樂學校敎授今井慶松氏所論東京日々新聞）

宮廷錄事

●歌御會始　去にし二十日午前宮中に於て歌御會始を行はせられたり。御製竝に詠進中の御前披講に係る歌左の如し。

巖上松

御製

苔むせる岩根の松のよろつよも
うこきなき世は神そもるらむ

皇后宮御歌

大内の山の岩根にしけりゆく
こまつの千代もみそなはすらむ

東宮御歌

ふきさわく嵐の山のいはね松
うこかぬ千代のいろそしつけき

東宮妃御歌

うこきなくさかゆる御代を岩の上の
松にたとへて誰か仰かぬ

撰歌

あら浪のよするいそへの岩の上にことそともなくたてる松哉　雅樂頭正八位勳八等豐時鄰上

はひかゝる蔦のかつらを注連にして神さひたてり岩の上の松　大日本歌道奬勵會員　臺灣總督府鐵道部配竹下樞長上

年をへし松もこまつとみゆる哉れさす岩ほのかけたかくして　東京府士族松浦辰男上

なみ風をしのきてたてる海中のいはほの松をこゝろともかな　京都府士族進藤則子上

わたなかのいはほにたてるひとつ松常世の波やなはよせけむ　大阪府平民藤村叡運上

さかえゆく春のみ山の岩の上に生ひそふ小松かすもしられす　大日本女學會々員　石川縣平民北川すゞ子上

ちはやふる神代の松か島つ鳥鶴月のいはやのうへにたてるは　鹿兒島縣士族宇都宮村雄上

●北白川宮の御慶事　北白川宮恒久王殿下と皇女常宮昌子内親王殿下と御結婚の約成れりと洩承はる恒久王殿下は明治十五年九月の御誕生にて數へ歲の御二十三年常宮殿下は二十一年九月の御誕生にて數へ歲の御十七年なり

雜報

◎事局問題と婦人

●米國婦人に感謝狀　米國婦人が看護婦となりて日露戰爭の場合には日本に來援すべき旨の事柄は雖に本紙にも傳へたるが、英國にある我國婦人は此義擧を聞き稱讚措く能はず林公使夫人始め二十餘名集會の上、感謝狀を贈る事に決せしよし。

●愛國婦人會員の檄文　本會會員服部文子氏は事局問題に對し、大に感ずる所あり、一篇の檄文を草し、之を時事新報報知新聞每日新聞に投じ、廣く天下の姉妹に訴ふる所ありたるが、每日新聞の如きは、爲に一篇の論說を揭ぐるに至れり。

●指環の獻納を申出づ　平素儉約して買求めし此指環は、敢て贅澤の爲にてはあらず、此時の用意なりとて、指環を軍資の中に投ぜん事を申出でたる婦人あり。そは神戶市橘通り藤尾のぶえといへる人にて、自分の平素愛藏する十八金實石入指輪二個を取出だし、兵庫縣を經て獻納方申出でたりと云ふ。

●兵士に贈る靴足袋　播州加古郡加古川町の藝妓駒吉は、實母三木せいと兩人にて、高砂町長を訪ひ、万一日露開爭の節は、看護婦の下働きにても爲し、國恩の万分の一を報じたしと申出て、目下兵士に贈るべき靴足袋を編み居れりと云ふ。

●綿織絲獻納の申出　大阪地方は、日清戰役の際に於ても、いち早く獻金の申出ありたる程にて此度の時局に對しても、第一に獻金の申立は大阪府なり。現に愛國婦人會員にも一婦人にて百圓寄附方を申出られたる程なるが、同地淸水谷高等女學校生徒は既に綿織絲獻納の義を申出たるよし。

●海上勤務の軍人を犒へとの檄　事局に對し王師の先鋒として、第一の勝敗を決する者は、我海軍將校兵士の任にして、日夜偵察に巡航に、盡瘁しつゝあるは、事實にして、特に華頂宮、山階宮殿下等、金枝玉葉の身を以て、猶て海上勤務に從事せらるゝは、國民に於て感謝の外なし。我慈仁にして義俠に富む貴婦人諸君は、艦隊乘込の兵士を犒うべし云々。且つ物品を贈與せらるゝ方は紹介の勞を取るべしと論ぜしは、中央新聞社なり。

●軍服裁縫　第二師團兵營内に於て、至急に軍服の裁縫を要すれども、市内の商人計りにては、到底調ひ難きを以て、仙臺市に於ける二三の裁縫女學校生徒及び、宮城婦人會員二十餘名日夜兵營内に出張し、裁縫に從事せるよし。

●新艦回航英國軍人歡迎　春日日進兩艦到着の上は之が回航の任に當りたる英國豫備士官及水兵の勞を慰し出來得る限り之を歡迎するは國民の義務なりとの趣意を以て商工經濟會は一月廿日評議員會を開き下相談の結果代表者をして海軍省に差支への有無を質したるに同省は其美擧を賛したり由つて東京市及東京商業會議所に聯合を申込み是亦異存無き由なれば不日市會及總會にて決議するに至るべしといふ而して其方法は歡迎事務所を置き漸次協議する筈なるも要は獨り東京市のみならず沿岸都市開港場等の團躰にも夫々相當の歡迎の意を表することを慫慂し東京に於ては士官以上には園遊會を開き下士以下は無料にて各所の見物に案内し總てに紀念章を贈る等國民として出來得る限りの歡待を爲すべき計畫なりといふ貴婦人方の催しは如何に。

●安井女史送別會　安井女史は今回暹羅國華族女學校設立のため、同國皇后陛下の招聘により、同國に渡航するにつき、東洋婦人會、大日本婦人敎育會、大日本女學會、大日本女子敎育會等の首唱にて、去にし十八日午後四時より上野精養軒に於て、送別晩餐會を開き席上鍋島侯爵夫人、辻帝國敎育會長、木場文部次官、三輪田眞佐子、下田次郎、山澤俊夫、副島八十六氏等の挨拶及び演說ありて安井氏は答辭を述べたり、來會者は以上諸氏の外、松平子爵、岡部子爵、大村子爵、毛利男爵の各夫人、嶋山春子、山脇房子、棚橋絢子、ミスプリンス等四十餘名なりき。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本女學會編纂

婦人寶典

此書は小松宮頼子殿下の總べさせられ女學の通信教授を以て世に名高き大日本女學會に於て多年蒐集されし所の女學に關する和漢洋の諸材料中より最も婦人に適切なる部分を拔萃したるものと新たに名家の起稿されたるものとを一書にまとめ以て婦人座右の良師友たらしめんが爲に編輯されしものにて殊に其學藝諸科目は孰れも專門大家の擔任に係り實に世に類なき婦人寶典なり其目次並に講述者左の如し

本文

○女子修身	女子高等師範學校教授	佐方鎭子
○禮法		同上
○家庭教育	三輪田高等女學校長	三輪田眞佐子
○家事管理	女子高等師範學校教諭	後閑菊野
○家事經濟		同上
○家事衞生	東京帝國大學名譽教授醫學博士	三宅秀
衣服		同上
飲食物		同上
住居		同上
動靜		同上
○育兒		同上
婦人衞生		同上
看護	東京帝國大學教授醫學博士	吳秀三
○裁縫	東京裁縫女學校長	渡邊辰五郎
○割烹	故	田邊和氣子
○挿花		同上
○點茶		同上
○作文		今泉定介
○作歌	御歌所寄人	坂正臣
○習字	御歌所參候	大口鯛二
○畫學	女子美術學校教授	武村千佐子

鼇頭　○音樂（明治音樂會幹事東儀季治）○刺繍（共立女子職業學校刺繍主任教師木村仲子）○造花（同校造花主任教師金子支江子）○編物（同校編物主任教師豐原繁尾子）○組絲（同上）○兒童心理（日本女子大學校教授高嶋平三郎）○なりむすび○食品分析表○歌書式○歌御會始預選歌集○婦人名歌集○交際の栞○泰西禮法一斑○家庭遊戲○各地特殊の料理○法制大意○經濟大意○女訓○和書解題○漢書解題

挿畫　○上古、天平、藤原、鎌倉、足利、德川、今代、各婦人服裝の彩色畫（村田丹陵筆）○光明皇后、紫式部、承香殿女御、小大君、平政子、山内一豐夫人、各筆蹟寫眞○明治貴婦人筆蹟寫眞○明治閨秀筆蹟寫眞（以上口繪）此他挿中の挿畫數百個

◉本書は内容の有益多趣なるのみならず外形をも高尚優美に裝飾せるものにて進物賞品等に極めて適當なり△本書は各地特約書肆に發賣を託しあり御便宜の場所にて御購求を乞ふ◉本書の見本御入用の御方は往復はがきにて御申込次第進呈すべし

和紙摺帙入全五册（紙數千三百頁 菊版）實價金參圓參拾錢
洋紙摺（總クロース綴）合本壹册（紙數同上）實價金貳圓貳拾錢
小包郵送料 内地 和裝貳拾錢 洋裝貳拾錢

發行所
東京京橋區柳町五番地 郁文舍（電話本局三〇〇〇）
大阪東區南本町四丁目 積文社（電話東三八四）

◎右の書籍發行につき本會事務所に於て購讀者の便宜を計り左の特別割引を以て愛國婦人讀者本會々員會友並に「をんな」達へ送本方取扱ひ候
和裝 割引代價金貳圓九拾錢　洋裝 同金壹圓九拾五錢
但し小包郵便料前掲の通り貳拾錢を要し候尤も東京市内は郵送料を要せず候
東京市麹町區下二番町三十七 大日本女學會事務所（電話番町一三三〇）

堺枯川著

家庭の新風味

（全部六册洋裝合本◉定價壹圓郵稅八錢）
（各册貳拾錢◉郵稅貳錢宛）

第一册 家庭の組織　第二册 家庭の事務
第三册 家庭の文學　第四册 家庭の親愛
第五册 家庭の和樂　第六册 家庭の教育

東京朝日新聞評 最も通俗に最も平易に最も多趣味に書かれたり男女共に一讀せば必ずや大に得る所あらん
大阪朝日新聞評 孰れも有益なる文字にあらざるはなし妻たり娘たるもの親たるもの夫たるもの皆讀むべし
報知新聞評 姑も讀み嫁も讀み夫も讀み令孃も讀んで毫も不快を感ぜぬのみか成程さうだと反省せしむ世間幾多の家庭に關する書ありと雖此書の右に出づる者なし
都新聞評 和樂春の如き家庭を作り得ば此書は當に幾萬金に値せん

內外出版協會 東京神田區南甲賀町八番地

本店卸部 東京日本橋區長谷川町貳番地 美濃磯本店 電話浪花二八五九 電略ミイリ

小賣部
美濃磯本郷支店 本郷區本郷五丁目十五 電話下谷一四一五
美濃磯淺草支店 淺草諏訪町廿貳
㊎小田商店 芝區新櫻田町九番地
㊇伊澤商店 牛込神樂坂町二百八
㊇伊澤支店 四ッ谷傳馬町一丁目

目半ゑり帶揚類 價直一段低廉 嶄新優正確實
○肩掛○頭巾○下締○帶止○帛紗○手柄○襦袢袖○雀形○ゑり治形○紀念形まげ入○チエリー洗粉
本店 ゑり治 新橋竹川町十二番地 電話新二〇二七
支店 ゑり治 神田表神保町壹番地 電話本局九五二

◎ゑり治商店支店開業 今回神田區裏神保町一番地へ半襟專業の支店を開設仕り品質柄行等精々勉強仕候に付陸續新店の方にも御用仰付られたく候

關藤治郎編

普通臨床看病法

正價金卅錢 郵稅四錢

「中書目次」（精圖數十入）看護婦の責務◉病室◉冷罨法◉病蓐◉吸入法◉（巴布）作り方及應用◉外用藥用法◉芥子泥◉飲食物の與へ法◉飲物調理◉服藥の與へ法◉老人小兒藥量藥品秤量及びめゐとる尺比較◉皮下注射法◉體溫計測法◉脈搏を計る法◉呼吸を計る法◉座藥施行法◉座藥使用法◉尿に就て必要なる事柄◉腟洗滌法◉發泡膏應用◉脚湯法◉人工浴一覽表◉腰湯法坐浴◉吸角法◉水蛭使用法◉出血及其止血法◉火傷及其手當法◉凍傷及其手當方◉中毒及其手當法◉繃帶及使用法◉按摩法◉外科看護法◉婦人科看護法◉産科看護法◉乳母の選擇及乳兒の攝生◉病態の觀察方法◉傳染病及取扱方法◉傳染病消毒法◉傳染病看護婦の注意◉熱性諸病看護方◉肺結核痲疹回歸窒扶斯、間歇熱、肺炎、肋膜炎、腹膜炎、盲腸炎、腦膜炎、癲癇、貧血、武雷篤氏病、（腎臟炎）耳下腺炎、破傷風（てたぬす）強直症、鵞口瘡、百日咳、喘息、咯血、精神病、看護法◉電氣使用法◉夜中看護法◉死體取扱方法◉食用品分析表及び消化時間◉水の試驗法◉牛乳試驗法及び人乳分析◉濕度表

普通衞生

療病新書

醫學士馬島珪之助先生閱 關藤治郎先生著
附り處方調劑 正價六十錢 郵稅六錢
發兌元 東京神田鍛冶町 誠之堂（電話本九四九）
賣捌各地一書店に有

小兒婦人科專門 西川醫院
本所區綠町一丁目卅一番地 南わり下水際
電話浪花三千七十三番

◉水原産科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千七百〇九番）○外來診察午前中○入院隨時○同院に私立産婆學校の設あり

耳鼻咽喉科院
院長 ドクトル 山上兼輔 診療每日午前
四谷區本村町三十七番地 電話番町七三〇（士官學校前）

婦人科産科榊病院
院長 醫學博士 榊順次郎 每日午前診察
副院長 醫學士 久保德太郎 每日夕刻診察
東京麹町三番町卅三（電話番町三九五）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十七年一月廿五日發行(毎月十日廿五日二回)

謹賀新年

御進物用美麗調製

東京市日本橋區堺町通ふきや町

中西儀兵衛

電話浪花七百番

日本橋 駿河町

三井呉服店

◎特約販賣店

◎東京堂 神田區表神保町三番地

◎東海堂 京橋區鍋町四丁目

新年之御慶芽出度申納候

日本家庭辭典

編輯主任 文學博士 芳賀矢一先生 文學士 下田次郎先生 外諸大家數十名 贊助執筆

近來女子教育長足の進歩をなし女子の品位日に月に上らんとするは、實に慶ぶべき事ともなり。然れども男尊女卑の風習を馴致せる女子の爲に作られたる良書は甚だ少く、特に智識の寶庫、修養の第一要具たる辭典、事林の類に至りては皆無といふべし。歐米諸國は文化の先驅者たるだけありて女子寶典の數少からず獨逸の女子百科辭典(Lexikon der Frau.)の如きは總紙二千餘頁、二百五十餘の專門家を網羅し、數年の星霜を費やして成れりといひ英國の婦女年鑑(Womens Year-Book)はことに女子の爲に年々幾千餘頁の書を發刊し米國の令孃寶典(Youngladies Treasur-Book)また千頁に近き大册たり。我か國曾て女子の爲にかゝる大出版あるを聞かず。蓋し一般の百科辭典さへ備はらざる今日、殊に女子の辭林の大成を望むは稍むつかしき注文なれども、女子はその天職を完うするに、男子よりも一層複雜多種なる智識を要ししかも修養の時間短く、一旦嫁してのち家庭の支配者となるに到れば、獨學自修の他、殆ど智識を吸收する道なきものと謂ふも不可あらず況んや我國今日の狀態女子は尙社會交際の上より修養の道なきをや。智識の寶庫、修養の第一具たる家庭事典、女子辭典の必要以て推知するを得べし。

我日本家庭辭典は實にこの欠陷を補はんとして編輯せられたるもの、芳賀下田兩先生を編輯主幹に戴き、それぞれ多數の專門家に執筆の勞を請ひ、遠からず出版の運に到らんとす。若し夫れ內容は、廣く東西の辭典類を參照し洽く古今の良書の萃を拔き題目は當世女子に適切なる事項數千を網羅して五十音順に排列し解說記述は系統を立てゝ理解し易く、文辭は平易流暢にして雅醇なる體を用ひ、加ふるに數百の圖畫を挿入して參考及理解に便し、卷末には綿密なる索引、有益なる表記其他從來の婦女節用等に含有する一切の事項を附錄としたれば、女子の寶典としては勿論女學生一般の淑女たちの必ず一本を備へらるべきもの、衣服鉾響に要する費用の數十分の一を以て、この有益なる辭典一册を嫁入道具とせられんことは新婚諸孃の爲最も望む所にして家庭の參考としては毎家必ず一本を珍藏すべき良書たるを信ず

本年一月印刷着手紙數凡千五百頁頗る美本●本書御入用の方は豫め其部數御申越被下度候(前金不要)

發兌元 東京神田裏神保町 冨山房

特許空氣暖爐に就て 大阪醫學校長 **佐多醫學博士**は現今世上に販賣せらるゝ室內暖爐の白眉として用ひらるゝの價値ある事余の研究室に於て試驗一ケ月聊か其見る處を記す、との御賞辭を賜り其他至る處御使用の結果何れも多大の御注文を蒙りしは本器の光榮此上もなき事に御座候

●空氣暖爐は少量の炭火を以て空氣の作用に依り强烈なる溫熱を發し溫度の加減自由なり

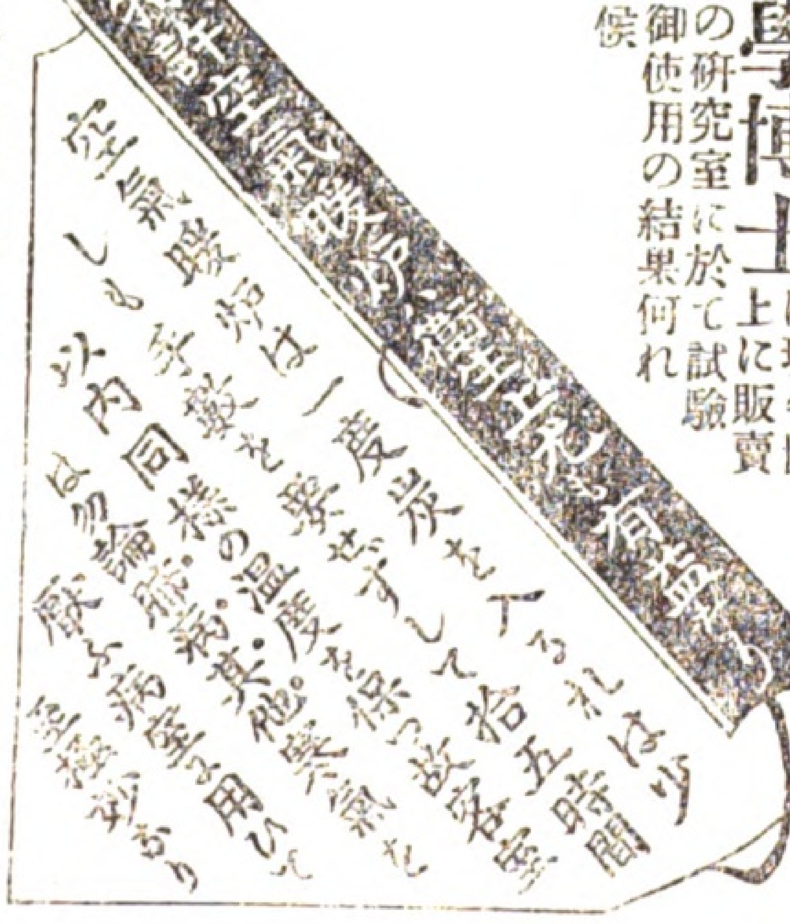
●正價一個 **金五圓四拾錢**

●地方送り荷造費箱代一個金四十錢

發賣元 東京市淺草區諏訪町一番地(特電話下谷八三一番) **小原商店**

●本器實物寫て左上手を御報次第送呈す

大阪市南區安堂寺町四丁目御堂筋北入(特電話東四二六番) **小原商店支店**



音樂生徒募集

本校甲種師範科私費生徒若干名を募集す入學志望の者は入學願書に履歷書戶籍謄本及受驗料金一圓を添へ來三月廿五日迄に願出づべし
但入學手續等は本月廿一日官報廣告欄にあり尙ほ詳細なる規則書を要する者は郵劵二錢を添へ本校に申出づべし

明治卅六年十二月

東京音樂學校

愛國婦人廣告取扱

神田區千代田町 博報堂 電話本局一四四番

京橋區尾張町 弘報堂 電話新橋八五一番

京橋區南鍋町 一星社

日本橋區上槇町 萬年社 電話本局一一二五

發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 手島益雄 發行所 大日本文學會內

印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地株式會社秀英舍第一工場

愛國婦人第四十六號附錄

明治三十七年一月廿五日發行（每月十日廿五日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

評議員
陸軍少將夫人一戸貞子

德島縣支部副幹事長
平井豐子

宮城縣支部副幹事長
錦戸順子

發行兼印刷人 山澤俊夫 編輯人 手島益雄 發行所 大日本女學會內愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地 株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

総　裁　小松宮頼子殿下

副總裁　鍋嶋侯爵夫人

推戴賛成員　有栖川宮大妃董子殿下
東伏見宮妃周子殿下
華頂宮妃經子殿下
梨本宮妃伊都子殿下

其他賛成員貴婦人一百餘名

大日本女學會

新學期を開き何人にても入會を許す

◎本會は女子教育の普及發達を圖らむ爲に女子必須の諸學科を掲けたる女學の講義録を發行し種々の障碍の爲に女學校に入學すると能はざる女子に居ながら修養を積ましめ以て一般女子の地位を高めん事を目的とす

◎本會發行の女學講義は畏くも　皇后宮の御覧を辱うし殊に御歌下賜の光榮を擔ふ

◎本會は第一流の名家をすぐりて講義を囑託し其講義有益にして趣味に富めるは既に世の定評ある所にして明治二十八年創立以來已に貳萬五千人の講習修了者を出せり

◎女子素養の程度に應ぜん爲講義録を高等と簡易との二種に別つ月謝は高等科金四拾錢簡易科金貳拾錢とし入會の節束脩(高等科四拾錢簡易科貳拾錢)を要す

◎女學講義初寀前期は十一月五日に後期は同廿五日に發行せり詳細なる會則希望者は端書にて請求あり次第送呈すべし

東京市麴町區下二番町卅七番地　**大日本女學會**
（電話番町千三百三十番）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN